

全 仏

12/56

師走に思う

ことはのおほき、ことはのきは
どき、かなのわるき、ものいひの
くどき、おしはかりこと、あわた
たしくものいふ、おのがいちをい
ひとほす、てがらはなし、ふしだ

ちたることは、人にあふてしんじ
つげにもものいふ、すゑのとほらぬ
こと、上のうはき、下へのさた、
人のさはりになること、ことはり
のすぎたる、引事のおほき、あや
まちをかざる、はやりことば、ふ
しもなきことをふしたていふ、学
者めきたるはなし、さとりくさき

風雅めきたる……良寛の七十ヶ
條であるが、一年を振りかえって
みるとわが事の様に思われてくる。
物を書いたり、話したりする者に
とって、心したい言葉である。現
実を謙虚に見、来るべき八十二年
の各仏教会の発展を期待したいと
思う。



除夜の鐘(大本山・総持寺)

(解説8面に)

全日本仏教会

生命の尊厳と仏教

大会テーマを中心に討議

第28回

全日本仏教徒会議開く

第二十八回全日本仏教徒会議（加盟団体代表者集会）は、去る十月二十七日、さわやかに晴れあがった秋空の下、神奈川県真言宗智山派大本山・川崎大師平間寺を会場に開催された。今年度のテーマは「生命の尊厳と仏教」。主催は昨年と同様、全日本仏教会で、加盟団体の代表者により、各分会において熱心な議論が進められ、我々仏教徒の今後歩むべき方向を考える上で、意義の深い大会だった。



川崎大師平間寺で開かれた全日本仏教徒会議

開会式典

定刻の九時半、磯山庶務部長の司会で日野事務総長が開会を宣言。名誉大会長・高橋隆天平間寺貫首の導師で三帰依文唱和のあと、大会総裁・秦慧玉全仏会長長式辞、高橋隆天名誉大会長と大会長・鱒淵正浩理事長が挨拶。つづいて来賓として出席した奥田幹生代議士（自民党文教局

講演をされる磯村東洋大学長



次長）、ネパール大使、スリランカ大使の挨拶があつて、開会式を終了した。

磯村学長が基調講演

ひきつづいて、同じ地下大講堂を会場に、東洋大学長・磯村英一氏が「生命の尊厳と仏教」と題して基調講演を行った。磯村氏は同問題を全面的に取り上げ、「私がかつて、ニューヨークの国連軍縮会議に出席した時、日本には、部落差別問題があるのに、なぜ国際人権規約を批准しないのか、という指摘を受けました。部落差別は百年前に解決されたというが、「新平民」という言葉が生まれたことからわかるように、これは基本的人権にかかわる問題として今日も続いています。同和対策事業は、一般の社会福祉事業と異つて、意識の変革をめざす、国民的課題と申せましょう」と、同和推進の重要性をうたへた。

総会

午前の総会は、田代組織部長の司会で十一時半開会。豊田総務局長開会の辞、日野事務総長を仮議長として議長団の選出にすすみ、議長に貝山宣泰師（神奈川県仏会長）、副議長に岩崎宗秀師（東京都仏理事長）、山本杉氏（全日仏婦理事長）が選出され、議長団席に着いて議事を開始した。

まず大会幹事が紹介され、幹事を代表して神野真一幹事長が挨拶。つづいて勝部組織局長から、議事運営規則、部会編成等の説明が行なわれ、日野事務総長から全仏事務報告があつて、総会を終えた。

三部会にわかれ討議

午後一時からの部会は、この地下大講堂のほか、二階大広間、中書院の三会場に分かれて、問題提起者の発題と、上程された意見発題を基に熱のこもった討議がなされた。

第一部会——仏教における生命観
第二部会——現代の社会問題と教化対策

第三部会——仏教運動の実践と組織強化

総会

各部会終了後、三時から地下大講堂において午後の総会が始まった。山田文化部長の司会で、柳大会副幹事長が開会の



仏教の生命観をテーマに第一部会

辞、貝山議長挨拶に続いて議事に入る。まず各部会の報告が、摩尼清之（第一部会）、河野亮永（第二部会）、柳了堅（第三部会）の各部長よりなされた後、宣言決議文が、塩入亮達宣言決議文起草委員長から発表された。そして議長団退席、真溪大会副幹事長の閉会の辞で、総会は終了した。

次回開催地は札幌

閉会式

ひきつづいて、鎌田国際部長の司会で閉会式に移り、鱒淵大会長と野沢隆幸名誉大会幹事長が挨拶、次期大会の開催地発表となった。それによると、第二十九回全日本仏教徒会議は、来年六月二十四日に北海道の札幌市で開催される。開催

社会問題と教化対策の第二部会



地を代表して、北海道仏教連盟の松井義海会長から挨拶があり、小峰順誉東仏会長の万歳三唱、豊田総務局長閉会の辞で、すべての日程を終了した。

第一部会

第一部会は、摩尼清之部会長、西村輝成副部会長によってすすめられ、まず問題提起者の真溪貫氏が「仏教における生命観」をテーマに、「自然科学という生命」とは、物質反応の挙動としての生命であり、精神活動も単に物理科学的作用としかみない。それに対し仏教の生命観には、山川草木悉有仏性とか色心不二といわれるところに、独特な立場がある。こうした考えを深めることによって、現代

の生命軽視の風潮に歯止めをかけるべきではないか」の述べた。

このような発題に対して、真言宗豊山派の北条賢三師から「生きとし生けるものを殺傷するまい、という不殺生戒の精神を實踐すべきだ」という意見が出され、また、臨済宗妙心寺派の山本盛徳師からは、「科学者の単に物とみなすような生命観に迎合すべきではない。生命とは個々人のものでありながら、仏の生命であり永遠の生命である」などの考えが述べられた。

その他、近代仏研の壬生照順師から、「仏教精神に基く軍備撤廃核兵器廃絶を實現させよう」という意見発題、さらに墮胎に対する討議など、生命軽視の現代にこそ、仏教の生命観を強く訴えていくべきだという意見が大勢をしめた。

（助言者）西義雄、佐伯真光、山本杉

第二部会

河野亮永部会長、井上日宏副部会長によってすすめられた第二部会は、まず若林隆光師が、「現代の社会問題と教化対策」と題して問題を提起。「家庭教育、老人、同和など今日の社会問題に対して、仏教界からは、解決のための問いかけが充分になされていない。ジャーナリズムをリードできるよう、教化策について、本腰を入れて取組むべきだ……」

これに対し、群馬県仏会長の竹市文成師から「仏教を指針とした家庭教育の実



実践と組織強化の第三部会

「実践について」という意見発題が出され、群馬県仏の教化の一方策として行っている家庭教育の実状が報告された。

さらに、浄土宗の加藤秀善師が「全教団が同和問題解決のために」というテーマで意見発題。特に浄土宗の同和に対する取りくみについて説明があり、さらに、

第三部会

第三部会は、柳了堅部会長、島田貴久子副部会長のもと「仏教運動の実践と組織強化」をテーマに進行。まず問題提起者の武藤義一氏が「科学者の立場から、仏教運動の実践をどうすすめるか考えていくと、具体的には、現代人にマッチした現代仏教聖典の出現こそが、今後の組織強化の中心となるだろう。それも、従

今年六月に結成された「同和問題にとりくむ宗教教団連帯会議（同宗連）」の現状報告が行なわれた。同和問題については浄土真宗本願寺派の三宮義信師からも、同宗連未加盟教団が加盟するよう訴えられた。

（助言者） 橘了法、塩入亮達

来のような文字だけを用いたものではなく、最新の情報科学を駆使したものであるべきだ」と述べた。

次に、全日仏青副理事長・玉川寛祥師から「仏教徒による救援奉仕機関を設立し、そのための基金を設置しよう」という意見発題が行なわれ、全日仏青が行なったカンボジア難民の救援活動について、詳細な報告がなされた。

（助言者） 中村瑞隆、岩崎宗秀、正本 乗光

第28回全日本 仏教徒会議 大会宣言

昭和五十六年十月二十七日、秋空のもと、川崎大師平間寺において開催せられた第二十八回全日本仏教徒会議に参集したわれら仏教徒代表は、「生命の尊厳と仏教」を大会テーマにかかけ、真剣なる討議のすえ、混迷せる現下の世相にあつて、仏教徒のとるべき立場を次のごとく確認した。

一、われら仏教徒は、生命の尊厳を高くかかげる仏教思想こそ、世界平和確立の基礎たるべきことを確信し、その普及に全力をつくす。

二、われら仏教徒は、万人の平等と一切の差別撤廃を説く仏教理念こそ、来るべき世界の指導原理なることを確信し、差別なき理想社会の建設に邁進する。

三、われら仏教徒は、「国際障害者年」にあたり、大乘仏教菩薩道の精神により、

収入の部

科 目	子 算 額	決 算 額	摘 要
国内仏教徒会議費	2,600,000	2,100,000	全仏よりの提出金
会 参 加 費	800,000	658,000	参加者会費
大 収 入	500,000	1,040,000	賀儀及広告料
合 計	3,900,000	3,798,000	

支出の部

科 目	子 算 額	決 算 額	摘 要
会 場 設 備 費	900,000	848,000	川崎大師会場設置その他
会 謝 礼 費	1,000,000	696,000	講師、大会幹事手当
印 刷 通 信 費	700,000	806,120	ポスタープログラム
印 刷 通 信 費	300,000	350,000	印刷事務用品・送料
印 刷 通 信 費	300,000	349,720	大会記念品
印 刷 通 信 費	300,000	244,800	大会準備委員会
参 加 者 旅 費	150,000	499,610	大会お弁当
参 加 者 旅 費	150,000	499,610	大会お弁当
子 算 額	250,000		宿泊、交通費手当
合 計	3,900,000	3,794,250	差引残額 3,750

第28回全日本仏教徒会議収支報告

全世界のすべての苦しみ悩む人びとの救済活動に全力を結集する。

四、われら仏教徒は、仏祖報恩の為に釈尊生誕のルンビニー聖なる園の復興に協力する。

五、われら仏教徒は、互いに協力して組織の強化をはかり、国内、国外たるとを問わず、ひろく仏教徒の大同団結を推進する。

右、宣言決議する。

昭和五十六年十月二十七日

第二十八回全日本仏教徒会議

上信堂上川金太郎商店

- 墓地用線香製造販売
- 各種墓地用品販売
- 各種薫香販売

本 店 東京都豊島区巢鴨 4-8-7
TEL (03) 917-1734
東北出張所 山形市山寺(堀川商店内)
TEL (0236) 95-2742

県仏代表者会議開く

組織強化など四議題を討議

十九都道府県から参集

第二十八回全日本仏教徒会議前日の十二月二十六日、午後四時から川崎市の日航ホテルを会場に、都道府県仏代表者会議が開かれた。

会議には、十九都道府県仏の代表者が



熱心に討議を重ねる代表者会議

出席、日野事務総長開会の辞、鱒淵理事長の三掃依文唱和、挨拶に続いて、司会の田代組織部長から、出席者一人ひとりが紹介された。その後、座長に神奈川県

出席、日野事務総長開会の辞、鱒淵理事長の三掃依文唱和、挨拶に続いて、司会の田代組織部長から、出席者一人ひとりが紹介された。その後、座長に神奈川県

全仏の常務理事会開かれる

京都・和順会館で宗務総長会も

全日本仏教会の常務理事会が、十一月四日午後三時から、京都の浄土宗総本山知恩院・和順会館で開かれた。

日野事務総長開会の辞、鱒淵理事長挨拶のあと、議長に鱒淵理事長、議事録署名委員に小沢照禱師と鳥居慎督師を選んで議事に入った。

◎議案第一号「昭和五十七年度歳入歳出予算案の編成方針について承認を求めらる件」

事務次長、担当部長より説明、事務総局の編成方針を承認。

◎議案第二号「次期会長、副会長推薦のための〈会長・副会長推戴委員会〉の人選の方針並びに次期役員改選方針につ

た。仏教会の貝山宣泰師を選んで議事に入

議題①「組織強化について」

○ブロック別の件

○未組織県仏の組織化

議題②「同和問題」

議題③「都道府県仏負担金新算定方式導入について」

議題④「ルンビニー圏復興の協力について」

なお、引き続き行われた懇親会で、「各都道府県仏年次計画の報告」がなされた。

いて承認を求めらる件」

担当部長より説明。推戴委員は負担金提出上位十宗派より一名づつ、県仏より四名、各種団体より一名の十五名とし、

加盟団体の代表者並びにこれに準ずる人を委員として、事務局からの指名により委嘱することを承認。役員改選方針は原案通り承認。

◎議案第三号「靖国神社正式参拝の自民党々議決定の対応策について承認を求めらる件」

担当部長より説明。声明書の字句を一部修正の上、承認。

◎報告事項①「臨済宗東福寺派の加盟について」

出席者（順不同・敬称略）

神奈川・貝山宣泰、本間孝康、京都・小林忍戒、宮城泰年、鶴飼泉道、和歌山・前田孝道、山形・板垣隆寛、阿部光伸、山梨・小笠原博旺、蒔田孝順、滋賀・木辺宣慈、群馬・竹市文成、徳島・庄野真澄、秩父真応、鳥取・小林秀雄、香川・石井宥龍、長尾徳水、綾沢光郎、岐阜・橘感月、若染一雄、東京・岩崎宗秀、畑直孝、茨城・大越孝仁、愛媛・千頭英、埼玉・江連俊則、河野亮永、北海道・松井義海、愛知・木村正範、宇佐美諒練、静岡・杉浦秀光、福岡・村上賢亮

承認。

◎報告事項②「総理府より依頼の〈戦没者追悼の日〉制定に関する意見聴取について」

意見聴取に応ずることを承認。

◎「ルンビニー復興日本仏教徒委員会」の経過報告並びに今後の方針について」

担当部長より報告された。なお、常務理事会に先立ち、午後一時からは宗務総長会が開催された。日野事務総長開会の辞、鱒淵理事長挨拶の後、座長に武田篤彦師を選出。

審議事項①「次期会長、副会長の推戴及び役員改選について意見を求めらる件」

審議事項②「靖国神社正式参拝の自民党々議決定についての対応策について意見を求めらる件」

報告事項「ルンビニー復興推進計画について」

聖徳太子肖像の存続

新券発行 大蔵省へ全仏から声明書

去る十月三日開催された理事会において、新券発行について、聖徳太子の肖像がなくなることについて、聖徳太子の肖像を、大蔵大臣あてに出すことが決議されたが、それに基づいて十一月十六日、

現在にまで伝えられています。肖像がなくなるとは、日本人の良心

税制改正で自民党へ要望書

また、宗教法人の税制に関する議論が一部のマスコミなどを賑わしている折、

全仏税務委員会では、去る九月二十八日、財団法人全日本仏教会理事長・鱈淵正浩、税務委員会委員長・鈴木靈孝名で、左記のような要望書を、自由民主党政務調査会・税制調査会あてに提出した。

昭和五十七年度税制改正の審議にあたり、本会は左記の点を要望致します。格段のご配慮をお願い申し上げます。

新券発行について、「聖徳太子」の肖像がなくなることについて、

昭和五十九年発行の新券より、「聖徳太子」の肖像がなくなることが決定されたとの報に接し、本会は以下の理由で、この施策に反対の意志を表明するものである。

(一) 長い間、日本人が親しんできた「聖徳太子」の肖像が印刷された紙幣を、この時点でなくす理由は、全く理解できないものであります。

二、申し上げるまでもなく「聖徳太子」ほど古来より仏教徒のみでなく、広く日本全土に尊敬され親しまれてきた人は見当らず、太子の残された精神は脈脈とし

を失うことに他ならないと考えます。三、仏教と聖徳太子の関係は深く、太子ゆかりの寺院も加盟団体の中に数多く存在し、このたびの施策については驚きと悲しみで受けとめており、反対の声を高くしております。

財団法人 全日本仏教会 理事長 鱈淵正浩

記

一、宗教法人の税制に関して、最近、他の法人との比較において非課税措置が多すぎるとの批判が耳にされます。しかしながら宗教法人本来の目的達成のため

の事業から得た収入は非課税という原則は、単に税制面のみの視点から検討されるべきものでなく憲法に明示される「信教の自由」・「政教分離の原則」との関連において判断されるべきものであります。

二、宗教法人の行う収益事業は、今更申し上げるまでもなく、本来の宗教活動を十分に行うため必要不可欠の部分が大きな要素を占めております。現在、公益法人等の行う収益事業の種類並びにその範囲の見直しに関係当局により進められているとも聞き及びますが、その判定にあたっては本来の宗教活動の基盤に影響を与えないよう十分なるご配慮をお願い申し上げます。

(イ) 御守り、御札(卒塔婆を含む)、おみくじなど、それ自体が崇敬の対象となる様なものの頒布については現在、法人税法基本通達十五―二―一により物品販売業に該当しないことになっておりますが、これを法人税法施行令第五条一項一号中に、物品販売業に該当しない旨特掲下さるようお願い致します。

寺院用具

浅草通り五鳳会加盟店

株式会社 決田商店

東京都台東区寿2-10-9 (地下鉄田原町駅前)

電話 代表 (841) 4965

税務委員会開く

専門家を招いて

(ロ) 公益法人等の行う不動産貸付業の種類並びに範囲については、法人税法施行令第五条一項五号に定められておりますが、本号に特掲されている収益事業に該当しない範囲を、これ以上縮小することのないようお願い致します。

以上

第三回及び第四回の税務委員会は、宗教法人に関する税について、それぞれ専門家を招いて、説明を受けた。

まず、十月二十八日午後一時から明照会館会議室で開かれた、第三回委員会は、大蔵省主税局税制一課主税調査官の

原一郎氏が「宗教法人税制の基本的考え方とその大綱」と題して講演、その後、原講師と自民党政務調査会専門調査員の村口勝哉氏を囲んで懇談した。

さらに十一月九日(月)の第四回委員会では、同じく午後一時から明照会館会議室で、自治省税務局固定資産税課課長補佐の提新二郎氏が「公益法人(宗教法人)に対する固定資産税の諸問題について」というテーマで講演をし、その後懇談した。

(なお、講演の要旨は、次号の全仏誌で紹介する予定です)

第四回同和委員会

研修会開催さまる

第四回同和委員会は、十一月五日午後一時から、京都の真宗大谷派会議室で開催された。

一、同和委員会規定について
委員会の目的、構成、委員の任期、任務等を定めた、同和委員会規定(案)を来年の理事会へ提出することとなった。

二、同和研修会の開催について
十二月十一日(金)に、当委員会が中

心となって、「同和研修会」を開催することになった。

三、その他

先般、事務局より出されていた同和に関するアンケートに、不明瞭な回答を寄せていた真言三宝宗へ、委員長・事務局が事情聴取に行った報告が、委員長からなされた。

出席者(順不同・敬称略)

久保井恭彦、喜多昭賢、堀井隆俊、馬場修任、蓮池瑞旭、山北光彦、北村章道、善村一観、市原雄忍、朽木明暁、近藤玄鶴、鈴木道雄、藪光龍、橘了法

同和推進のために

⑧

同和委員会委員長

橘了法

今次の仏教徒会議の劈頭、大会長である全日仏会長が、仏教はインドに滅び、中国においても共産党下に消え去り、ひとりわが日本において盛んである由のメッセージ。これは全く世俗の感覚から一歩も出ない、文字通りの世辞。この国のいたる所に堂塔あって、観光ツアーバスが走っているから仏法繁昌というなら、それは余りにも皮相でないか。

全日仏の運営機構に同和委員会が設けられた以上、同和感覚こそ仏法感覚とうけとることを日本の宗教者、宗教

教団の名で表明した立場から、このことは厳しく内にチェックしておかねばならぬ。

仏法盛んなりというその実態の歴史は何であったか。差別のうえにあぐらしていた、この国の仏法であったことに、深々と頭を垂れて仏祖と大衆の前に陳謝したご当人であった筈。

そのことを踏まえての今次の仏教徒会議でなければならぬ筈、基調講演は何であったか。いのちの尊厳とはただに生理的生命の謂ではなく、人権の尊厳であった。

ルンペンニ復興、国際的キャンペーンとして仏教徒として意義のあることに異論はない。但しインドに滅びたという仏教が、いまだにあるインズー差別に抗して、いまや澎湃として仏法の名で起ちあがらんとしている大衆との連帯ぬきにして何の復興なのか。昨年、ガールド氏を迎えたことは何であったか。

大会準備当局も大会メッセージは、ひとり老人の感懐に委ねることなく事前にキチンと整備しておかねばならなかったのに、あいもかわらず株式会社総会よろしくシャンシャン主義に終始した年次大会であったこと、つながら一員として反省する

この世の本寺本山のいみじき僧ともうすも法師ともうすもつきことなりとみることから仏法は始まる。

宗教界には最もゆかりの深い菩提樹と蓮の花を育ててみませんか!!

成道ゆかりの樹……菩提樹(印度ブッタガヤ産直輸入品) 苗代¥10,000(鉢付)

極楽浄土の華……蓮(チャワンパス通称姫蓮) 苗代¥7,000(鉢付)

上記の品二点を同時予約注文の場合 特別価格¥15,000

お申込、お問合せは下記のいずれかの所へ御一報下さい!

東京池袋 西武不動産(株)園芸営業所 ☎(03)989-2755
〒171 東京都豊島区南池袋1の16の15(西武鉄道ビル内)

名古屋 資梅金商店 ☎(052)241-0901(代)

有かたばみ商事
〒460 名古屋市中区大通三丁目39番33号



ルンビニー視察団

十四名元気に帰国

ルンビニー復興のため、現地がどんな状態になっているか、実際に行きつて確かめるための、全日本仏教会・ルンビニー視察団の一行十四名は、去る十一月十日、成田国際空港を出発、七日間の視察を終えて、十六日夜全員元気に帰国した。詳しい視察内容は、二十四日開かれたルンビニー復興日本仏教徒委員会で報告されたが、要旨は次号の全仏誌にも掲載される予定。

参加者（順不同敬称略）

団長・小野島元雄（全仏事務次長）、副団長・貝山宣泰（神奈川県仏会長）、本場大龍（臨済宗建長寺派宗務総長）、顧問・武田慧照（真宗大谷派・真行寺住職）、団員・高橋哲英（曹洞宗・保福寺



ルンビニー視察団の一行

表紙の写真

除夜の鐘

（大本山・総持寺）

十二月三十一日から、元旦にかけて各寺院でつかれる除夜の鐘。百八つという数は誰でも知っているが、その意味については經典によって諸説ある。煩惱の異名で衆生を迷いの境界に結

縛するという意味での九十二結に、十纏を加えて百八とする説。六根と六塵とが対する時、好・悪・平の三つがあり、それぞれに染・浄の二つあつて三十六、そのそれぞれに過去・現在・未来があるので百八とする説。さらに六根に苦・楽・捨の三受があつて十八、また好・悪・平の三種があつて合わせて三十六となり、これが過去・現在・未来に分かれ百八となる説、等である。

住職）、岩田利文（臨済宗妙心寺派・永福寺住職）、柳下得二（天台宗・地福寺檀徒総代）、本場敬三（臨済宗建長寺派法輪寺住職）、高桑正温（日蓮宗企画調整課長）、安本利正（全仏・国際文化局長）、田代弘興（同・組織部長）、鎌田良昭（同・国際部長）、小峰立丸（同・国際部主事）、小野島良子

法律無料相談室

毎月第2第4火曜日
お気軽にどうぞ

全日本仏教会では、十一月から、各寺院が抱える法律的諸問題について、気軽に相談できるよう、法律無料相談室を開設しています。相談内容につきましては秘密を厳守致しますので、御遠慮なく御相談下さい。御寺院だけでなく、檀信徒の方の御相談もお受け致します。

法律無料相談室
担当 全仏顧問弁護士 長谷川 正浩氏
日 時 毎週第二・第四火曜日 午後一時～四時
場 所 全日本仏教会事務総局 港区芝公園四一七―四

相談方法 面談・書面・電話
〇三一四三七―九二七五
ただし、面談の場合は前もって御連絡下さい。

事務総局録事（十一月）

- 四日 常務理事会
- 五日 宗務総長会
- 六日 同和委員会
- 六日 局内会議
- 九日 税務委員会
- 十日 ルンビニー視察団出発 法律相談室
- 十六日 ルンビニー視察団帰国
- 十八日 インド法華ホテル起工式参列
- 十九日 局内会議
- 二十一日 日蓮聖人報恩音楽法要参列
- 二十四日 ルンビニー委員会 法律相談室
- 二十五日 日宗連理事会
- 二十六日 会長推戴委員会 機構改革特別委員会
- 二十八日 局内会議
- 三十日 第三回世界僧伽大会出席

昭和五十六年 十二月一日発行
十二月号 第二七四号

発行人 日野照護
編集人 安本利正

発行所 財団法人 全日本仏教会

東京都港区芝公園四一七―四
電話〇三（四三七）九二七五